

かま ぶた ばる
釜蓋原遺跡

大野城市教育委員会



写真1 釜蓋原遺跡から大野城市街地（北東側）を望む

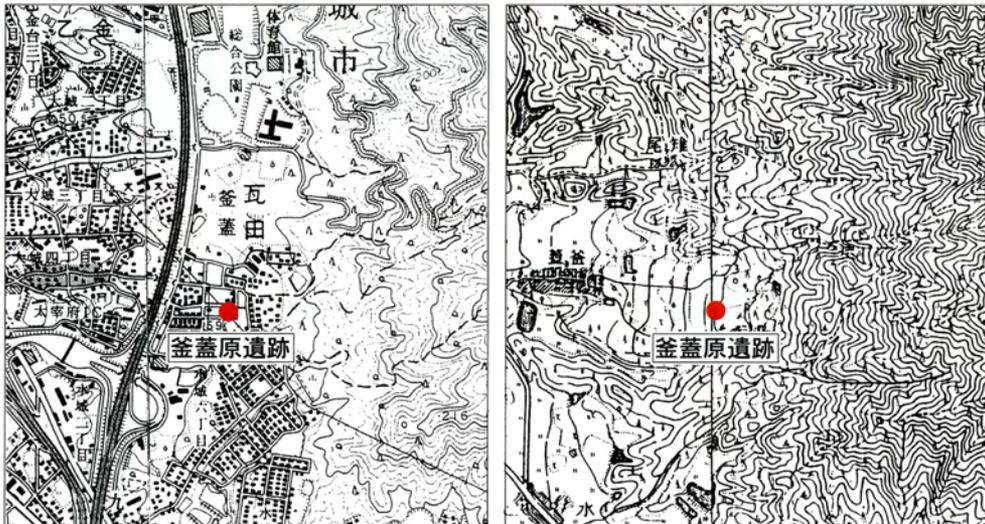


図1 遺跡周辺の地図（左：平成11年、右：大正15年）（1/25,000）

釜蓋原遺跡とは 釜蓋原遺跡は、大野城市大城5丁目にある遺跡で、旧石器時代から縄文時代にかけての石器が数多く発見され、大変重要な遺跡として注目されています。

遺跡が発見された場所は、四王寺山の麓の緩やかな斜面上（標高約70m）にあり、現在は住宅街となっていますが、1980年代の区画整理事業以前は、畑や果樹園が広がるのどかな風景でした。

拾われた石器 釜蓋原遺跡は、発掘調査が行われる以前から有望な遺跡として知られていました。福岡市在住の中原志外^{なかはらしげあき}さんは、戦後間もない頃から、旧石器時代（約12000年以上前）のナイフ形石器（槍の先端）や細石刃（組合せ式の槍の一部）、縄文時代（約12000年～2500年前）の石鏃（矢じり）や石槍などを採集し、現在まで大切に保管されています（写真2～4）。また、市内在住の岩瀬まさの^{いわせまさのぶ}さんは、50年程前に縄文時代の石鏃を約1000本も採集したそうです。

発掘調査 発掘調査は、区画整理事業に伴って1985年から1987年にかけて行われました。その結果、中原さんや岩瀬さんの発見を裏付けるように、旧石器時代のナイフ形石器や細石刃、縄文時代の石鏃や土器などが出土しました（写真5）。市内では、この時代の石器がまとまって発掘された例はなく、改めて重要な遺跡であることがわかりました。

釜蓋原遺跡の特徴 これまで見てきたとおり、この遺跡からは驚くほど多くの石器が発見されましたが、その大部分は石鏃や石槍といった狩猟具（狩りに使う道具）です。通常、縄文時代の遺跡からは、こうした狩猟具とともに、木の実を磨り潰す道具（石皿、磨石）や木を切る道具（石斧）などが出土しますが、この遺跡からはほとんど出土しませんでした。

このことから考えると、縄文時代の釜蓋原遺跡は、日常生活のためのムラではなく、狩りをする際の前線基地のような場所であったと想像できます。

きっと、当時この周辺には、たくさんのイノシシやシカが棲み、それを追う狩人たちは、弓矢を持ち、猟犬を連れて、何度も何度もこの地を訪れたことでしょう。

遺跡から発見されたたくさんの石器は、狩人たちの「足跡」と言えるのかもしれない。



写真2 旧石器時代の石器（中原氏採集）



写真3 縄文時代の石槍（中原氏採集）



写真4 縄文時代の石鏃（中原氏採集）

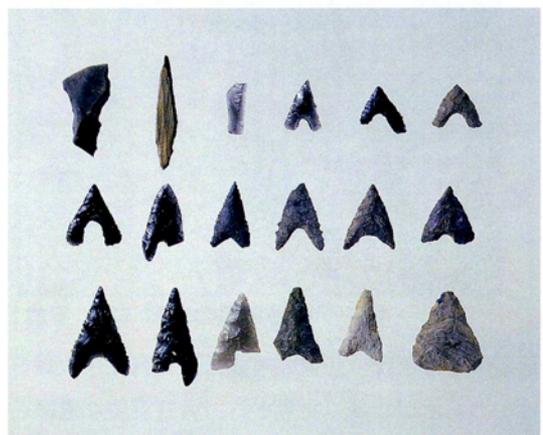


写真5 発掘調査で出土した旧石器～縄文時代の石器